

はたして日本研究にとって ジェンダー概念は有効なのか？

—人類学の視座から改めて問う

Concept of Gender, Valid or Not?
Reconsidering from the Field of Anthropology of Japan

人類学にもその出自の重要な一端があるジェンダー概念。ジェンダー概念に依拠した（と主張する）研究がさまざまなテーマにおいて増殖してきたが、ジェンダー概念とは何なのかが問いかげられることなく使われ続け、無定義概念化の様相すら呈しているのではないだろうか。一方、現在の日本はジェンダー／セクシュアル・マイノリティをめぐる、教育、法、社会制度などの見直し作業の只中にもある。こうした現状をふまえて、本シンポジウムは、マリー・ピコーネ博士（お茶の水女子大学特別招聘教授・フランス社会科学高等研究院）を基調報告者に迎え、ジェンダー概念の有効性／賞味期限／無効性について足元の日本研究の視座から問いかけ、あえて立ち止まって考えなおす作業を試みるものである。

マリー・ピコーネ／お茶の水女子大学・フランス社会科学高等研究院
(Mary Picone/Ochanomizu University & École des hautes études en sciences sociales)

胎児の死と中絶をめぐるジェンダー化の諸相：ヨーロッパの実践的変容と日本の水子供養の対比的考察から

Gendered Attitudes towards Fetal Death and Abortion: Recent Changes in Practices and Imposed Attitudes in Europe versus *Mizuko Kuyō* in Japan

松岡 悦子／奈良女子大学 (Etsuko Matsuoka/Nara Women's University)

ジェンダーなのか文化なのか：文化人類学にとっての難問

Seeing Gender or Culture?: Conundrum for Cultural Anthropology

加藤 恵津子／国際基督教大学 (Etsuko Kato/International Christian University)

〈男〉〈女〉〈その他：___〉：ポストコロニアルな日本をジェンダー・カテゴリー化する

〈Men〉〈Women〉〈Other (specify)___〉: Gender Categorization of Post-Colonial Japan

ディスカッサント

新ヶ江 章友／大阪市立大学 (Akitomo Shingae/Osaka City University)

熊田 陽子／日本学術振興会 (Yoko Kumada/Japan Society for the Promotion of Science)

コーディネーター：**棚橋 訓**／お茶の水女子大学 (Satoshi Tanahashi/Ochanomizu University)

* 使用言語：英語・日本語の併用（同時通訳あり）

要事前申込・参加費無料

お茶の水女子大学ジェンダー研究所ウェブサイト <http://www.igs.ocha.ac.jp> の申込フォームからお申し込みください。

日時：2015年 **11月14日** 13:30～16:00

会場：お茶の水女子大学 共通講義棟 2号館 102号室

<http://www.ocha.ac.jp/access/index.html>（土曜日のため、正門からお入りください）